

## 本会設立60周年記念シンポジウム

# 倉吉市庁舎設計・建設の記憶をたどる（於：倉吉市庁舎）

堂計画室主宰（本会正会員） 生田 昭夫

一般社団法人全日本建築士会設立60周年記念事業として、去る令和元年5月25日（土）鳥取県倉吉市にある倉吉市本庁舎3階大会議室において「市民シンポジウム・倉吉市役所建設の記憶をたどる」が行われました。

約90名の市民の参加があり、参加者の中には鳥取短期大学の学生約30人も聴講に來られました。シンポジウムは、倉吉市教育長・小椋博幸氏及び鳥取県中部総合事務所長・吉川寿明氏のご挨拶から始まり、次に基調講演「倉吉市庁舎の歴史の意味」が本会専務理事・中村光彦氏によって行われました。

基調講演の概要は、倉吉市庁舎が建設された昭和30年代の建築界の様子、丹下健三が設計した広島市の平和祈念館、香川県庁舎、旧東京都庁舎などを紹介しながら、倉吉市庁舎の見方・考え方、その位置づけについて、映像を紹介しながらの話でした。次に、伊勢神宮や桂離宮の例を挙げ、仏教が日本に伝来する以前の形についての考え方や、素材の美と建

物の関係を倉吉市庁舎と比較しながら丁寧に

説明しました。桂離宮やそれを評価したブルノ・タウトの話も紹介されました。また、都市の核としての広場と民主主義について触れ、倉吉市庁舎での広場についてヨーロッパの「ギリシャの都市国家の広場としてのアゴラ」の例と、中世イタリアの広場について「シエナのカンポ広場」の例を、写真を使って詳しく紹介し、庁舎・広場・教会の成立の経過を日本での明治以降に作られた公園や広場の違いを、多くの写真を使って説明しました。これらの写真は、普段見ることのできない貴重な写真が多く、そのすごさと巧みな説明に圧倒されたシンポジウムでした。このシンポジウムに参加された市民の中には「お話が大変分かりやすく、美しい写真が見られてとても良かった」と話されていました。

次に、活動報告として、「倉吉市庁舎 議会棟 震災復旧工事 設計管理を体験して」という話を私がさせていただきました。



シンポジウムの模様

倉吉市庁舎は、岸田日出刀・丹下健三の設計、大林組の施工により、1965（昭和31）年に竣工しました。岸田日出刀・丹下健三の連名の設計はこれが唯一の例といわれています。市役所は、耐震補強工事が終わっていましたが、平成28年10月21日の地震で議会棟の柱頭8本が崩壊し、その改修工事の設計をするのに必要な資料、当時の図面・工事写真等設計図書が倉吉市役所に全く残っていませんでした。そこで、地元の新聞を通して当時の写真や資料の提供を呼びかけました。そ

一社)全日本建築士会 60周年記念事業

市民シンポジウム **倉吉市役所 建設の記憶をたどる**

設計:丹下健三・岸田日出刀  
"地域の核としての歴史的意義を考える"

令和元年 5月25日  
13:30~16:45 (13:00受付)

倉吉市本庁舎 3階 大会議室  
鳥取県倉吉市東町722

入場無料 (70歳以上)

13:30 開会式  
13:45 基調講演「倉吉市庁舎の歴史的な意味」  
講師:中村 光彦氏 (建築家)  
14:00 休憩  
14:15 活動報告「倉吉市庁舎 復興復旧工事 設計監理を体験して」  
講師:生田 昭夫氏 (建築家) (DVD視聴可能)  
14:30 パネルディスカッション「市庁舎にこめられたメッセージをひも解く」  
15:45 倉吉市庁舎見学

お問い合わせ先  
倉吉市役所建設の記憶をたどる会 m0458-26-5749 FAX 0858-26-4025 kurado@time.ocn.ne.jp  
一社)全日本建築士会 倉吉支部 m0658-47-3215 FAX 0858-47-3213 rnp13495@nifty.com

シンポジウムパンフレット

一社)全日本建築士会 60周年記念事業

市民シンポジウム **倉吉市役所 建設の記憶をたどる**

設計:丹下健三・岸田日出刀  
"地域の核としての歴史的意義を考える"

令和元年 5月25日  
13:30~16:45 (13:00受付)

倉吉市本庁舎 3階 大会議室  
鳥取県倉吉市東町722

入場無料 (70歳以上)

講師紹介  
中村 光彦氏 (建築家)  
生田 昭夫氏 (建築家)

パネラー紹介  
中村 光彦氏 (建築家)  
生田 昭夫氏 (建築家)  
倉恒 俊一氏 (倉吉市元市長)  
丁田 勝功氏 (倉吉市元市長)

れにより、当時の写真約34枚や8ミリ (50分) に記録された工事の映像が見つかりました。これはとてもありがたいことでした。この貴重な資料をそのままにもできませんので、本部の協力を得て、小冊子 (37頁) とDVD (19分) にまとめました。

まず、8ミリ映像を、DVD (19分) に編集した映像を皆様に視聴していただきまし

た。この映像は、建設当時の工事現場の様子

や倉吉の町なみ、近くの小学校の運動会の様子等が記録されていました。特筆しておきたいのは、岸田日出刀・丹下健三の二人が動画で記録されている貴重な映像が残されていた事です。この映像を見ていただいた後、昭和29年戦後まだ10年も経っていない時に建設することになったいきさつや、岸田・丹下に設計を依頼する事になったいきさつについて話しました。

この設計に、丹下がこだわったこと。それは「市民のための市民の市庁舎を作る」、「戦後民主主義をかたちにする」、その為には「市庁舎には広場が要る」ということです。

これらのことを具体的にどう設計したのかについて、当時の資料を元に説明しました。

具体的には、行政棟と議会棟を分離し、市民が地下足袋でも作業服でも自由に議会所に入り傍聴できる平面を提案したこと、市庁舎の中に市民文化ホールを確保したこと、敷地の都合から2階建の市民広場を作ったことなどが挙げられます。

これらの後、パネルディスカッションと市庁舎の見学会を行いました。

特に見学会は好評で、「私たちは、長いこと倉吉に住んでいます、庁舎をこのような説明を受けながら見学したのは、初めてでした。とても良かったです」との言葉が印象的

でした。

本シンポジウムが盛会のうちに終了したことをご報告すると共に、ご協力をいただいた鳥取県・倉吉市・倉吉市教育委員会・一社)鳥取県建築士会・一社)鳥取短期大学ほかの方々々に深く感謝いたします。

尚、その後、倉吉市庁舎はDOCOMOMO (モダン・ムーブメント) にかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織) から認定を受けたことも併せてご報告いたします。

倉吉市役所庁舎の今後のあり方を探る

シンポジウムで工事映像公開

国の登録有形文化財となつて倉吉市役所庁舎の建設の記憶をたどるシンポジウムが25日、同市役所で開かれた。設計図や建設当時の工事に関する映像、写真などが公開されたほか、基調講演やパネルディスカッションなどを通して参加者が同庁舎の今後のあり方について考えた。

倉吉市役所庁舎の歴史的背景を踏まえ、倉吉市役所庁舎の修復工事に携わった同市在住の生田昭夫氏が登壇。設計図や当時の映像、写真などを収めた小冊子から、倉吉市庁舎と倉吉市役所、倉吉市庁舎と倉吉市役所との関係について、生田氏が話した。

(吉浦雅子)

倉吉市役所庁舎の歴史的背景を踏まえ、倉吉市役所庁舎の修復工事に携わった同市在住の生田昭夫氏が登壇。設計図や当時の映像、写真などを収めた小冊子から、倉吉市庁舎と倉吉市役所、倉吉市庁舎と倉吉市役所との関係について、生田氏が話した。

(吉浦雅子)

倉吉市役所庁舎の歴史的背景を踏まえ、倉吉市役所庁舎の修復工事に携わった同市在住の生田昭夫氏が登壇。設計図や当時の映像、写真などを収めた小冊子から、倉吉市庁舎と倉吉市役所、倉吉市庁舎と倉吉市役所との関係について、生田氏が話した。

(吉浦雅子)